

知っ得国際税務クイズ！！

1 「カーボン・ニュートラル」という言葉を昨今よく耳にします。税制面では、EUを中心に、炭素税（Carbon tax）を導入する国が増えてきています。

CO₂（二酸化炭素）1トン当たりの炭素税の額がいちばん高いのは、次の国のうち、どこでしょうか？

- A ドイツ
- B フィンランド
- C スウェーデン

<正解：C>

スウェーデンでは、炭素税は1991年に導入され、1トン当たり14,400円となっています。世界で初めて炭素税を導入したのがフィンランドで、1990年に導入、税額は9,625円となっております。フランスは5,575円、イギリスは2,538円です。ちなみに日本では2012年に炭素税の一種として、地球温暖化対策税が導入されましたが、その税額は1トン当たり289円と、EU諸国と比較して非常に低い水準となっています。アメリカや中国、ロシアは炭素税を導入していません。

2 EUは、2026年から輸入品に対し国境炭素税（Carbon border tax）を導入する方針を打ち出しています。その対象品目となっているのは、次のうちどれでしょうか？

- A 肥料
- B 自動車
- C 紙

<正解：A>

欧州委員会が、現時点で課税対象としているのは、CO₂排出量の多い「鉄鋼」「セメント」「肥料」「アルミニウム」「電力」の5品目です。EU域内の輸入業者は域外から製品を輸入する

際に、製品のCO₂排出量に応じた炭素価格を支払うこととなります。今後、業種や製品の追加も検討していることから、自動車や電気機器などの業種に影響が出る可能性もあるようです。ちなみに、ロシアの歳入は約29兆円でその3～4割が石油・ガス・石炭などのエネルギー産業からの税収となっており、EUが国境炭素税を導入すると、ロシアの損失は年間約7,800億円となる試算が出ています。

3 カーボン・リーケージ（Carbon leakage：炭素流出）とは？（複数回答）

- A 気候変動対策が遅れている地域から、安価な製品が輸入され、EU域内企業の競争力が弱まること
- B 気候変動対策が遅れている国に生産拠点が集中し、結果的にCO₂排出量が増加すること
- C 気候変動対策が進んでいる国に人口が集中し、CO₂排出量が増加すること

<正解：A・B>

地球の気温上昇を2度以内に抑えるパリ協定の目標を達成するために、ヨーロッパ諸国では炭素税を早くから導入してきましたが、その結果、カーボン・リーケージが発生し、気候変動対策に取り組む国の国際競争力が弱まる懸念があります。それを阻止するために、国境炭素税が導入されることとなりました。

気候変動により人的・物的被害のみならず、国の財政までも逼迫する事態が差し迫っています。個人としては小さな取り組みでも、地球規模で取り組めば大きなパワーになります。将来世代への愛を込めて。

（国際特別委員長 丸岡美穂）